

訳納品後の追加的サービス（説明、解説、追加情報など）、⑧翻訳チェック、翻訳コーディネーター・サービス、⑨編集・造本サービス、⑩情報サービス、など翻訳者の行う顧客サービスが内容となります。これらは翻訳業界の実際の動きの中で形成されて来ている基準・慣行ですが、プロフェッショナル翻訳者として翻訳ビジネスを遂行するために必要な知識技能です。

### (3) 翻訳生産体制

マネジリアル・コンピテンス・テストの第三番目のジャンルは翻訳生産体制の実務知識です。どのように翻訳生産を行っていくかの問題です。これには、①共同翻訳、②ターミノロジー・スタイルガイドなど発注者支給条件、③約物（記号・句読点など）・表記・文体の条件、④翻訳品質の保証、⑤フォーマット選択、字数・行数選択その他編集条件、⑥リサーチなど周辺サービスの提供、⑦翻訳生産効率化のための投資その他の方策、⑧翻訳における情報セキュリティ、⑨翻訳チェック体制、⑩国境を超えた翻訳の再発注、などがテーマとなりましょう。これら翻訳生産に関する実務の知識はプロフェッショナル翻訳者として翻訳ビジネスを経営するに際しては知っておかねばならないことです。

## 2. どのように準備するか

マネジリアル・コンピテンスのジャンルで問われる知識は翻訳の実務の中でつちかわれるものです。JTA 公認翻訳専門職の資格認定には試験合格に加えて2年以上の実務経験証明を要求していますが、これは翻訳専門職としてそれが要求されるからです。試験問題は実務の過程で自然に身につけることができる知識の範囲となっていますが、次のような点に平日頃から関心をもたれておくとうまいでしょう。

### (1) 職業倫理

プロフェッショナルな職業団体は、いずれもその職業の倫理綱領・行動規範を持っています。そしてそれはインターネット上に公開されています。日弁連の「弁護士倫理規定」、日司連の「司法書士倫理」、公認会計士協会の「倫理規則」などです。その他、建築士協会、経営コンサルタント協会、デザイナー協会などプロフェッショナルな専門職業人の団体はみな倫理規定を持ち公開しています。それぞれの団体のホームページを検索して読んで見ましょう。NAATI(オーストラリアの翻訳者団体)やATA(アメリカの翻訳者団体)も Code of Ethics をホームページに公開しています。

### (2) 顧客マーケティング

実際の翻訳業界におけるビジネス慣行の知識を必要としますから、翻訳会社に積極的にアプローチし聞き出すようにしましょう。翻訳会社のホームページにも翻訳料金やその他の翻訳契約の条件が書いてあります。日本の翻訳会社に限らずアメリカやヨーロッパの大手翻訳会社のホームページもぞいて見ましょう。

### (3) 翻訳生産体制

実際の翻訳生産にかかわることで生きた実務知識を得ることができます。共同翻訳の分担の場合に用語や文体や表記の統一をどのようにしてやるのか、発注者から翻訳の品質保証を求められたときどのような保証をするのか、効率的に翻訳生産を行うのにどのようなやり方をしたら良いのか等々です。実際に翻訳の仕事を受けてその中から実務知識を得るのが一番良いのですが、そのような機会のない方は、翻訳スクールのワークショップやインターンシップに参加して翻訳生産に参加するのが良いでしょう。ボランティア翻訳(慈善的な無償奉仕の翻訳)に参加するのも経験を積む一つの方法です。トランスパーフェクト社のようなアメリカの大手翻訳会社は翻訳者に経験をさせるためにチャリティ翻訳者を常時募集しています。

マネジリアル・コンピテンスの出題は以上のように実務に則した知識問題です。普段から翻訳業界に関心を持ち情報を蒐集しておくことが試験のための最善の対策です。